

## 中小企業政策研究（第4回）

平成23年9月7日（水）、滋賀大学大津サテライトプラザ・サテライトルームにて滋賀大学と滋賀県との連携による「中小企業政策研究」の第4回目を開催しました。

今回は、「商品開発とMOT（技術経営）」と題して、滋賀大学産業共同研究センターの山本卓特任教授から講義をいただいたうえ、演習や質疑応答・意見交換を行いました。

商品開発およびその事業化にあたり、「死の谷」、「ダーウィンの海」などそのプロセスに応じた障壁がよく紹介されているが、山本先生は、新たな障壁として「怠惰の島」を提案されました。既存事業の衰退に備え、次の研究開発に取り組むことが企業の持続的な成長に繋がるというものです。中小企業の場合、ひとつの事業の衰退が、企業の衰退に直結する場合があるため、滋賀大学では新たな研究開発に向けた製品コンセプト立案能力の向上に取り組んでおられるとのことでした。

そして、この能力向上に大きな役割を果たすのが発想の思考法であることから、本日はイノベーションを生み出すために不可欠な、発想の思考法とも言われている“アブダクション”に焦点をおき解説していただきました。実際にこの手法を用いて山本先生が取り組まれた低消費電力ディスプレイ開発の成功事例紹介や「犬が吠えないようにする首輪の開発」をテーマとして行ったグループ演習などを通じて、この発想の思考法について学び、理解を深めました。

また、「素人のように考え、玄人として実行する。」これが発想思考のエッセンスであり、夢を夢物語で終わらせずに実際の商品化開発につなげるときに役に立つものであると強調されていました。

その他、山本先生には、発想を生かすための設計開発や滋賀大学が進めておられる文理融合型の連携などについて補足説明をしていただき、今回のメインテーマである発想手法に関する考察を深めました。



<山本 卓 特任教授>



<グループ演習の様子>